

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2790800110		
法人名	有限会社 なでしこ		
事業所名	グループホームなでしこの家		
所在地	大阪市東住吉区中野2丁目5番11号		
自己評価作成日	平成 27年 11月 12日	評価結果市町村受理日	平成 28年 1月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2790800110-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 12月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3ユニットであるが、各ユニットの個性を出すようにしている。閉鎖的にならないようにし、アットホームな雰囲気を出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有限会社が運営するグループホームです。代表の「自分が住み慣れた地域で社会貢献できないか」との思いで設立されました。事業所内は、ゆったりと広くて明るく、開放感があり、居心地のよい家庭的な雰囲気となっています。「地域に密着し、みんなでいきいきと楽しく暮らしていきます」の理念を職員は共有し、実践しています。町会長の熱心な支援もあり、地域との交流にも積極的に取り組み、地域の納涼祭や敬老会、餅つき大会などに参加しています。利用者の自由な生活を支えるためのひとつに、外出の機会も多く作っています。管理者は職員に、利用者本位の支援や利用者の気持ちに寄り添うことの大切さを伝え、現場に浸透させています。会社全体で教育システムが構築され、職員の士気を高め質の向上に繋がっています。サービスのさらなる向上を目指そうとする管理者や職員の姿勢から、今後より一層の充実が期待できるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員ロッカーに掲示し、月1回の全体会議や、個人面接で確認している。	「地域に密着し、みんなでいきいきと楽しく暮らしていきます」を理念に掲げ、職員間で共有し実践しています。理念は職員詰所やロッカーに掲示し、また毎日申し送り時に唱和し確認しています。 管理者は職員に、利用者本位の支援や利用者の気持ちに寄り添うことの大切さを伝え、現場に浸透させています。	今後は、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標等を検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の散歩や、買い物時、地域住民との挨拶は欠かさず行い、地域のお祭り、敬老会、もちつき大会等に参加している。	開所時から、事業所と地域が一体となる運営に努めています。 町会長の熱心な支援もあり、地域との交流が積極的で、地域の納涼祭や敬老会、餅つき大会、カラオケ大会などに参加しています。 民謡や新舞踊のボランティアの協力は、利用者の豊かな暮らしを支える力となっています。 毎日の散歩では地域住民と顔なじみになり、農園近くを散歩の際、野菜を分けてもらう関係になりました。 職員のユニフォームも地域に定着してきました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方から、畑の野菜や、園芸のお花をいただく事もしばしばある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域自治会長からの祭りの情報を頂き利用者様・職員が参加できるようにしている。地域包括支援センターから研修情報を頂き参加したり、ご家族からの意見を頂戴し、ご質問やご希望があれば改善している。	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催しています。メンバーは地域代表として町会長、地域包括支援センター職員、利用者と家族、管理者と職員です。ホームから利用者の生活状況、行事等を写真も活用して詳細に報告しています。また、事故報告、職員の研修、感染症対策や身体拘束をしないケア等事業所の取り組みを報告し、意見を聞いています。町会長から地域の行事、地域包括支援センターから各種の情報提供があります。家族からも普段聞けない話を聞くことができます。毎回詳細な議事録を作成しています。管理者は、運営推進会議の開催が事業所運営上、貴重な機会と捉えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>区のグループホーム・小規模多機能連絡会、ケアマネ連絡会に参加し、情報共有を行っている。</p>	<p>運営推進会議に参加の地域包括支援センター職員とは何でも相談できる関係にあります。区の担当者には事故報告等で面談しています。また、3ヶ月毎に開催されるグループホーム・小規模多機能連絡会等で区の担当職員と情報の共有や意見交換等行っています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を発足し、身体拘束ゼロに努めている。玄関は開錠しているが、フローアは電子錠がついており、開錠できていないのが現状である。</p>	<p>管理者は身体拘束をしないケアの重要性を十分認識し、職員の指導をしています。毎月開催される全体会議で、身体拘束委員会のメンバーが情報を提供し、全職員で検討しています。会社主催の発表会の今年度当事業所の発表テーマは「スピーチロックについて」です。</p> <p>1階の総合玄関は開錠していますが、各フロアのユニット玄関は電子錠で施錠している状況です。職員は、利用者の外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけて付き添うなど、自由な暮らしの支援に努めています。管理者は基本的には開錠することが望ましいと考え、全体会議で開錠に向けた検討を始めています。</p>	<p>各ユニット玄関の施錠については、今後、職員全体で工夫を重ね、安全確保を行いながら開錠していくことが求められます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には入職時、全体会議、フロアー会議にて、注意喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者様で成年後見制度を利用されている方がおり、職員も後見人と話す機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書及び重要事項説明書に基づいて説明を行い、ご質問があれば随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関窓口に意見箱を設置している。また、ご家族様に満足度アンケートをお送りし、職員に指導、運営推進会議での意見を集約し反映するようにしている。	玄関窓口に意見箱を設置し、家族の意見を聞く工夫もしていますが、家族が面会に来られた時にできるだけ聴くようにしています。家族から衣類の色落ちについて要望があり改善しました。利用者には、職員が日頃の関わりの中から思いや要望を聞き取り、毎日のケアに活かしています。家族へのアンケート調査を実施し、サービス改善に活かしています。毎月の請求書送付の際は、利用者の暮らしぶりを伝える手紙と写真を同封しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議及び、フロア会議で意見や提案を聞いたり、事務所に気兼ねなく相談できるような環境づくりを行っている。	管理者は、常に、職員が相談しやすく、意見を言いやすい様に心がけています。毎月の全体会議の他、年2回、職員面談で意見を聞いています。職員も積極的に意見を出しています。利用者の外出支援については、日ごろから重点テーマとして取り組んでおり、職員の提案で、近くの公園にイルミネーションを見に行く、初めての夜外出が実現する予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回考課面談表を作成し、個人面談を実施。考課表を代表者に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、「教育委員会」があり、接遇、感染予防、介護技術、認知症ケアについての年間研修スケジュールを組んでいる。また、認知症実践者研修や、外部研修に積極的に参加出来る機会を設け、全体会議で勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム・小規模多機能連絡会に参加し、事業所間内での意見交換や、施設見学会、交流会などに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して暮らしていただけるよう傾聴しながら、関係づくりは時間を掛けながら構築するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学対応時に、ご質問や不明な点をお聞きし、説明を行っている。また、管理者不在時でも介護職員が施設の案内を出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面接時に、ご本人様・ご家族様が困っていることを確認し、初回のケアプランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや家事作業、買い物などを通して、共に生活する関係を築けるよう、関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会時には普段のご様子を報告すると共に、月1回写真入りのお手紙を送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙や年賀状を書きいただいたり、外線電話を取り次いだりしている。	元教師だった利用者の教え子が訪問したり、書道の得意な利用者は、手書きの年賀状を出したり、馴染みの人との関係が途切れないように支援しています。馴染みの人の訪問時に、普段見られない笑顔を見ることがあり、職員は、利用者の長い人生に心を馳せる大切さを学んでいます。 共に暮らしてきた愛犬と一緒に入居した利用者もあり、職員の支援を受けて、今ではホームの中に溶け込んで暮らしています。	利用者一人ひとりの、馴染みの人や場所を職員間で共有できる方法を検討し、よりその人らしい暮らしの実現に繋がることを期待されます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常、フロアで入居者様同士で自然に関わりを持たれていたり、職員が間に入り関係性を保つなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も何かご相談があれば、対応している。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけその人らしさを発揮出来るように、日課や役割がある。	利用者一人ひとりの思いや希望、生活習慣等の情報収集については、入居時の事前面接で聞き、アセスメントシートに記録しています。 管理者は職員に、利用者の感情に寄り添い、その場・その時の感情や意思を尊重することの大切さを伝えていきます。 散歩に行きたいという利用者の思いを実現するなど、利用者の希望の実現に取り組んでいます。	日常の関わりの中での気づきや発見は記録に残し、職員間で共有し、日々の支援に活かすことが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に情報を聞き取りフェースシートに記入している。入居後も新たな情報があれば、職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、気付いたことがあれば、記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別のケア記録の援助内容を記載し、モニタリングを行っている。出来るだけご本人様、ご家族様のニーズを確認している。	介護計画は、本人・家族の希望を組み入れて作成し、6ヶ月毎に見直しを行っています。職員は、一人ひとり、援助内容を書き込んだ「ケア記録」で、援助内容を確認しながらサービスを確実に実施しています。 計画作成担当者は、「本人のための介護計画」を心がけて計画作成にあたっています。	今後は、作成された介護計画を職員全体で共有し、その人らしく暮らし続けるための個別支援の充実に繋がることが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録を用いて、日々の状況を簡潔に記入するよう努めている。フロア会議でカンファレンスを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応しているつもりであるが、十分に行えていないのが現状である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの食材の買出しや、地域の行事に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関(内科)は2ヶ所あり、本人家族の同意を得て、月2回往診してもらっています。歯科、眼科の往診も必要に応じて行っています。	入居前からのかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。内科提携医療機関が2か所あり、利用者は希望する提携医師から月2回の往診を受けています。訪問看護による訪問も月2回あります。 医療連携体制で、夜間や緊急時の対応も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護と、24時間対応のナースコールで対応しています。その際に様子の報告を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の付き添い、介護サマリーや内服薬の引継ぎを行い、面会やご家族の同意を得て、ムンテラにも同席し、出来るだけMSWとの連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を確認した上で、主治医、家族、施設が方針を共有し終末期の支援に当たるようにしている。	入居時、重度化した場合や終末期のあり方について説明しています。希望があればホームでの看取りも可能です。これまでも看取りを経験しています。重度化や終末期の支援にあたり、職員の不安を解消するための分かりやすいマニュアルを作成しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員講習を受講した職員が、救命講習を全職員に行っている。また、事例をあげて、勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。運営推進会議で協力の働きかけを行っている。	防災マニュアルを整備しています。避難訓練は、年2回定期的に行うことを定めています。今年9月に自主避難訓練を実施し、2回目は消防署の協力を得て避難訓練を計画しています。災害時に備え、飲料水やマジックライス等食料を備蓄しブルーシートも置いています。消火器やスプリンクラーの設置もあり、1階のリビングのはき出し窓からは庭へ、2階3階のリビングからはベランダへ自由に出ることができる状況です。	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	非言語コミュニケーションが重要であることを常に意識してもらっています。また、「スピーチロック」をなくす取り組みを行っている。	管理者は職員に、人生の大先輩である利用者への尊敬の気持ちの大切さを伝えていきます。「目線を合わせる」「利用者に尋ねる」等を心がけてケアにあたっています。 接遇研修にも参加し、利用者を尊重するケアの大切さを確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合になってしまうことは極力避けるようにしていますが、出来るだけ入居者様との関わりを持ち、希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理美容を実施している。入浴の着替えや外出着を出来るだけご本人様と選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食・昼食は全て手作りの食事にし、準備やあと片付けも手伝ってもらっている。	1階の朝食と昼食は職員の手作りの食事を提供しています。他は、業者から半調理の食材が届き、職員が調理しています。ご飯は各階で炊いています。夏には庭でバーベキューをしたり、各階別メニューで作る昼食レクリエーション、月2回の手作りおやつの日、外食でお寿司を食べに行くなど食事やおやつを楽しんでもらう工夫を積極的に行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は毎日個別に記載している。低下がみられた時は、ゼリーするなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、訪問歯科での口腔ケアの指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別ケア記録に排泄の記録をしています。出来る限り、オムツの使用を減らすように努めています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや時間誘導を行い、自立に向けた取り組みをしています。トイレでの排泄を基本としています。おむつやリハビリパンツの使用を減らし、布パンツを使用するなど、排泄の自立支援に積極的に取り組んでいます。随時の誘導でおむつからリハビリパンツに代わった利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や運動での解消に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングには添えていないのが現状であるが、入浴剤を使用したり、ゆったり入浴が出来るようにしています。	利用者の入浴については、入浴回数が少ない状況があります。入浴を好まない利用者も、男性スタッフの声掛けで入浴される方には、男性スタッフが声掛けして、入浴につなげたり、入浴剤を使用するなど工夫はしていますが、一部に入浴を好まれないという理由で、月1回程度の入浴が固定化している場合があります、健康管理上課題となっている状況があります。	利用者が入浴を好まない理由を受け止め、どのようにしたら気持ちに添える入浴支援ができるのか、職員間の課題として話しあい、利用者の体調に問題がない場合、週2～3回程度の入浴支援が求められます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を多くし、個々に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイリングいつでも確認できるようにしている。また、少しでも薬を減らせるよう、往診時に医師と相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課がある方と、趣味を継続できている方はまちまちですが、出来るだけ支援して行きたいと思います。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には全ての希望に添えていないのが現状ですが、年2回外出レクを企画し、実践している。	管理者、職員は外出支援の大切さを認識し、利用者の希望に沿って少しでも外出ができるよう取り組んでいます。天気の良い日は、ホーム近隣の散歩、ゴミ出し、買い物、近くの会館での映画会、のど自慢大会等機会を見つけては外出しています。初詣や花見の行事外出も有ります。春、秋と年2回、遠足として観光、食事を兼ねた外出しています。今月は職員の提案により、イルミネーションを見る初めての夜外出が実現します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望応じ、対応しています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気作りと、季節にちなんだカレンダーなどを作成し飾ったり、1日2回温度・湿度を計測し居心地の良い環境づくりに努めている。	門から玄関は和風で落ち着いた雰囲気があり、庭には季節を感じる木や花を植え安らげるようにしています。玄関には、利用者と共に活けた花やクリスマスツリーを飾っています。食堂には見やすいカレンダーや時計を配置して、季節や日時を分かりやすくしています。玄関の靴箱の前には椅子を置き、利用者が外出しやすいように配慮しています。各フロアの食堂は窓が広くて明るく、ゆったりした造りになっています。テレビやソファも置かれ、心地よい環境で過ごせるようになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを2つに分け気の合う方が近くになるよう配慮している。自由に居室で過ごせるような支援もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとタンスは備え付けであるが、使い慣れたタンスや小物入れなどを持参されている。	本人が気持ちよく過ごせる居室づくりを大切にしています。各居室には、大きなタンス・ベッド・洗面台が備え付けられています。 利用者は、テレビ、使い慣れたタンス、小物入れ、家族の写真等持ち込み、それぞれの好みに合わせた居室づくりになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」を見極め、残存能力を生かせるように努めています。		